

修 報

<第12号>

論語素読会会報



題字 田久孝翁

学校法人

昌平覺

東日本国際大学

儒学文化研究所

子曰、

学而時習之、不亦説乎。

(子曰く、学びて時に之を習う、

また説ばしからずや)

学而第一 より



——『修報』という題名は、「学びて時に之を習う」という孔子のことばをもとに、学び修めることを求めつづけていくために、田久孝翁によって名付けられた——

目次

巻頭言 修報十二号によせて	1
孔子祭に出席して	3
論語を学んで	9
私の好きな論語の章句	21
論語素読教室 一般受講生	28

巻頭言

修報十二号によせて



学校法人 昌平黌

理事長 田久孝翁

「経世済民」

これこそ大学が果たすべく使命である。建学の精神である義を行いつて其の道に達す。義の伴わない行為は如何に高邁なる理想と云えども、その目的を達することは出来ないというように、世を起すことも民を救うなど出来ることではない。

論語に示される通り、教育そのものの価値判断はこれによって明白であるように、大学が果たすべき役割というものは、自ずから明白である。平和経済学、戦争経済学か世界は今迷っている。これを一口に言って「経世済民」である。大学の使命であるとい

うのは文学（教育）によってのみ人々の心は大きく変わっていくのであり、有教無類の精神が大学の使命というものであり、そこに心の教育というものが存在する。即ち建学の精神である。

最近に至る所で心の教育という問題が大きな社会問題として叫ばれているが、学問の始まりが心の問題として取り上げられる。

「有教無類」

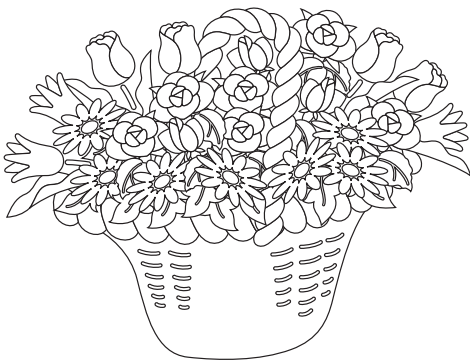
教え有りて類い無し、生まれたままの人間は誰でも平等であり、能力に大差はなく、全ては教育によってのみ人々の心は大きく変わっていくものであると言われるように、教育がすべてであるというのが有教無類の精神である。

このようにして教育が如何に大事であるか、科学兵器であれ、医療技術薬学であれ、人間が必要とされる機械器具全てはそこから生み出されるものであり、文明開花の出発点となっている。それが昨今の教育ではないだろうか。

「修身齊家」

身を修め家を斉える、それが世の為人の為、心の教育とはこ

から始まる。建学の精神も自らを正し、人の世を正す。それが教育本来の姿である。心があるからこそ万物の霊長であるのであって、心そこにあらざれば只の動物でしかない。昨今の世相に代表される言葉に、人の尊き所以は外物に存ずるにあらずして己の心にあることを思うべしとあるように、全てが心の教育を物語るものであり、建学の精神が至る所に要求されている。昌平黌の歴史と建学の精神について、再度申し上げ修報十二号に寄せての挨拶と致します。



孔子祭に出席して

(東日本国際大学)

影山義朗

本学に入學して、最後の「孔子祭」を終えました。私は最初の頃は一体何のためにやり、どのようなものなのか見当もつきませんでした。しかし、時がたつにつれて「孔子祭」の奥深さがわかってきました。

孔子は道徳的な人物で、自己の思想、態度など、常に向上を図っている人物である。そして、この「孔子祭」によって『論語』とは、私達人間にとっても大切なもので、「平和」や「人の道」をこの『論語』から学ぶことができました。これからは、社会にでていきますが、この孔子の教えを忘れずにいきたいと思えます。

陳 科

孔子は世界に認められた偉大な思想家です。

孔教の教義は「和をもって貴しと為す」、というように、排他性がなく、「和して同せず」、「仁者は人を愛す」という偉大な精神があります。最近のニュースを見ると、親が息子を殺したり、息子が親を殺したりする事件があとをたちません。私は孔子の「仁愛」、「家族を愛す」のような精神的なものは今日のように、物質文明が発達している日本に必需なものだと思います。そして、イラク戦争のように戦場で人が人を殺すようなことが今も発生しています。二十一世紀は平和的な発展が求められています。儒教文化は平和、幸福、互いの尊敬する精神などを提唱して、より一層世界へ伝えられていくことが求められています。

小林真也

孔子祭に出席して孔子という人物は、とても人に尊敬されていて凄く立派な人物だったんだと改めて感じた。普段、講義で論語を学んでいて少しは知識があったので、より孔子祭を楽しむ事ができた。孔子の言っている事は、凄く心にひびいてきて納得す

る。だから、孔子は今もみんなに親しまれているのではないかと
思う。孔子祭で一番心に残ったのは『孔子は、生きている』とい
う頌徳歌だ。初めは、このフレーズを見た時には、ありえないと
思っていた。だが講演で孔子について学んでいくうちに、孔子は
『論語』を学んでいる私達の心に生きているのだと、気づいた。
私は孔子のような、いつまでも人の心に残るような人になりたい
と、孔子祭を通じて思った。

高野 めぐみ

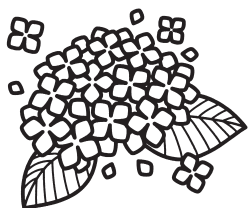
私は、石川先生の論語の講演の中の「子張問う、十世知るべき
や。子曰わく、殷は夏の礼に困る、損益する所知るべきなり。周
は殷の礼に困る、損益する所知るべきなり。其れ或るいは周を継
ぐ者は、百世と雖ども知るべきなり。」の言葉が気に入っている。
これは、前の文化のいい所を取り入れ、悪いところは、取り入れ
ないということである。「礼」つまり文化を守るということはと
ても大切なことだと思う。それは三国共通なのであって、それで
も守るべき文化があるのはすばらしいことだと思う。例えば■日
本は、和の心、着物、など■であると思う。

又、「子曰わく、学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれ

は則ち殆うし。」は、今の私にとってとても大切な言葉ではな
いかと思う。

学んで何も考えないのは学ぶ意味がない。又、考えるだけで学
ぶことをしないのは危険である。今大学で学んでいるが、それだ
けでは学んだことにならない。学んでいることについて、考えて
いかなければならないと思った。又、学ぶことをやめてしまっ
た糧となるものがなくなり、自分の考えで行動することは、とて
も危ない。どちらも両立して行わなければならないのだろうと思
う。

このように考えていくと、孔子の教えというものは「あたりま
え」のことを言っているのだが、そのあたりまえのことをするの
が難しい。「礼」を大切にするのはあたりまえのことだけど、実
際は、新しいものに目がいつてしまつて少し難しい。しかし、お
ろそかにしていたら何も残らない。だから、私は、時々『論語』
を読んで、忘れないようにしたい。



横 田 忠 知

今回の孔子祭はとても神聖な式であったと思います。今まで長い間、このような式をするというのは大変ですし、すばらしいことだと思います。今まで授業などでたくさんのことを学んできました。どんどん学ぶ内に、最初は分かりませんでした。孔子はとてもすばらしい人だということが分かってきました。ですから、現代になっても孔子は皆に知られているのだと思います。石川忠久先生の話も非常に興味深いものがありました。孔子は「神ではなく人です。」とおっしゃっていました。私は今まで孔子は人ではなく神なのではないかと思っていましたが逆でした。そこで疑問になってくるのが、なぜ孔子は神ではなく人なのに皆にこんなに知られているのだろうかということです。私の勝手な思いですが、それは多分孔子という人間はとてもすばらしい人間で、皆に愛され尊敬されたからこそ、神ではない孔子が、皆に知られたのではないかと思うのです。孔子の言葉は偉大で、とても為になります。私が生きていく上で大変重要なことを言ってくれていると思うことが多々あります。今日はこのような孔子を思う式をすることができて、よかったと思います。

渡 辺 尚 慶

私は、この孔子祭で今まであまり興味がなかった『論語』の素晴らしいに気付くことができました。「子曰わく、学んで思わされば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。」この言葉は、私にとっても当てはまると思いました。普段の生活を部活とバイトだけで何げなく過してしまっている私にとっては、とても考えさせられる言葉でした。これからは、この言葉を常に心に置き、残りの大学生活約二年半のうちで学べることを学べるだけ学んで、部活も一生懸命やり、バイトでも社会勉強をして、社会に出ていく準備をしたいと思います。

渡 部 大 器

孔子祭とは釋奠、釋菜のことで孔子の業績を讃えることが目的である。日本では応神天皇の時に儒教が伝えられ、孔子の思想・哲学が聖徳太子により十七条の憲法にとり入れられてより、私達の精神・道徳・生き方の支柱となってきた。昌平黌では、毎年孔子祭を行ってきた。昌平黌の「昌平」とは、世界が平和に鎮まるようにであり、ペンと剣の「文武」とは知と体、精神と肉体、学

問により徳を磨き、健全な心と体とを養うことであり、その両道が必要であることを再認識するために毎年祭典を行ってきた。

普段生活していると忘れがちな事を毎年行なうことで、思い出すことができる。初心に帰ることで新たに何かを発見することができるかもしれない。そんなチャンスを作ることができる場なのかもしれない。孔子の教え・徳を讃え、その心を受け継いでいこうとする意味において、宗教的な意味を含んではないことが分かった。孔子祭を邪険にしている人もいますが、孔子の教えを深く追求してみれば、新たな自分に会えるかもしれませんよ。まずは、孔子祭に参加してみよう。

栗 野 貴 仁

孔子祭に出席して、孔子に関する事をいろいろと聞いて、一番心に残った所は「子曰わく、吾十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」で、その中でも「十有五にして學に志し」という所です。それは十五才という若い年なのに、信念を持っていて、生きていって、それとずっと貫ぬいて生涯生きているということはすごいことだと思

いました。自分も、まだ若いので、これからいろいろ経験を重ねて、信念を持って立派な大人になっていきたいです。

井 筒 雄 矢

今回で私は三回目の孔子祭参加になります。

三回目でも、孔子という一人の人の教えを大事にしたいという会場の雰囲気のにのみこまれました。孔子祭ではいつも孔子の偉大さや純粋さを感じている気がします。

約二千五百年も昔から、数えきれないほどの人の心を洗い、自分というものをどのように理解し勉強するか、どのように生きていかなければならないのかを教えた孔子。私はもう一度『論語』を読み返してみたいと思いました。

また、私は野球部に所属しているため、儒学を野球や私自身の考え方の参考にしたいと今回この孔子祭の中で考えました。

今日、野球部は、二チーム（仙台・青森）に分かれて大会に参加するため、孔子祭は公認欠席で出発しました。

三年生になった私がどちらにも選ばれず、おそらく今日は、落ち込んだ表情で体育館に入ったのではないかと思います。しかし、今は、孔子祭でまだまだ私もやれるのではないかと考えが変化し

たように思います。私の今回の孔子祭での感想は、己を信じて、謙虚に、決して驕りは見せないプレーヤーとして、儒学を学ぶこの東日本国際大学のピッチャーとして、全国大会、神宮球場のマウンドで投げ、今回の感謝の気持ちを表したいと思いました。

三 瓶 直 人

私は、孔子祭に参加し、孔子の築いた儒学というものの歴史を改めて感じました。これまで四大は、まだ歴史は浅く、伝統といえるものもないように感じていました。しかし、本大学、短大は、儒学を学ぶことによって、その深い伝統を知ることができ、その伝統が本大学の伝統であるように感じるものが出来ました。私は、弓道部に所属しているのですが、弓道では礼節を重んじます。その根本には、儒学の考えがあり、大きな影響をあたえています。日本の伝統文化である弓道に、他国で生まれた儒学が、影響をあたえていると知ったときは、驚きましたが、儒学はすばらしい影響力があったのだと感じ、興味がわきました。

斉 藤 拓 也

本学に入学し、今日で四回目の「孔子祭」を終えました。年を重ねるごとに「孔子祭」の奥深さと意味とが理解出来るようになった様に思えます。私にとって最後の孔子祭になる事もあり、少し哀感をおぼえました。なので本日は、真剣にお話を聞きました。その中で、私の心に残っている言葉は、「吾れ十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず。」と言う言葉でした。良く考えてみると、この言葉は、三年前の初めての孔子祭を終えた後に、一番印象に残っていた言葉と同じでした。なにか、偶然を感じましたし、「必然的な言葉」なのではないかと思いました。そして、あの言葉は改めて、自分自身に必要な言葉だと知りました。この様に孔子祭は年を重ねるごとに、より多くの事を教えてくれました。私を成長させてくれました。



海 藤 洋 一

孔子は、人のすべての感情を表し、いろいろな考えを導きだしています。その考えは、日常生活の中で生かすことができ、勉強となります。私は「温故知新」と言う言葉が好きです。意味は、古きことを知り、新しいことを学ぶ、であります。私は、何をすることもそうだと思います。古い考え、知識があるからこそ、新しいことを学び、道が新たに開かれるのだと思います。孔子のように、古い言葉を学び、今に生かすことができれば、新しい発見ができると思いました。

佐々木 亮

今日の孔子祭では、孔子の事について深く語られました。石川先生による説明はとても解りやすく、集中して聞く事が出来ました。例えば、孔子が弟子に残した語を解りやすい身近な事に置き変えて丁寧に説明して下さい、孔子の歴史について熱く語って下さり、とても勉強になりました。今まで、私は孔子について知識が貧困でした。それにより身近に感じられず、勉強だけの教科書を読むだけで、深くは考えませんでした。しかし、今回の

「孔子という人」を聞いて、今の人間社会において、とても大事なことでないか、もっとくわしく学べきではないかと思うようになりました。

孔子の「子曰わく、故きを温ねて新しきを知る、以て師と為るべし」古いことを尋ねて、そこから新しいことを知る者は、人の指導者となることができる。まさにこの事ではないかと思うのです。知識が貧困で人格が出来ていなければ、人を動かす事も出来ません。そして優秀な人に人間は付いていくのです。

私は、今回のような祭典はとても大事な事だと思います。年に一回しかない祭典を大切にしていきたいです。これからも孔子の教えを勉強したり、立派な人間になれるように頑張って、努力したいと思います。



論語を学んで

「人知らずして慍みず、亦君子ならずや。」

本 間 雅 俊

私はこの文を読んで一番胸に残りました。他の部分もとても私の中で胸に残りましたが、この文は特に「自分の気持ちを突き通す。」と言う気持ちが表われており、こちらまでそれが伝わってきました。他の人が自分を知らなくても不満にも思わない。と言う所が男らしく、男の自分としても格好良く、見習いたいと思いました。そして最後の所の、人に認められたくてやってはいない。という所は、自分の心に決めていることがあるからだと思います。この文を読んで、私が見習う所はたくさんあったし、もっといろいろなことを調べたいと思いました。

私はやはり先生などに認めてもらうのも大切だと思いますが、勉学は人に認められるためにやるのではないと思います。自分の為に勉学をやるのであるから、この文は本当に今後の大学生活に役立つ文です。なので、これからの勉学に生かしてやっていきたいです。

部活では野球をやっていますが、他の人が自分を知らなくても不満には思わない。とありますが、確かに野球では有名選手ではなくても、良い選手はたくさんいます。有名になればそれで良いが、有名でなくても良い選手になるのが自分の部活での個人的な目標であります。なので、このことばの部分を自分のプラスにして、生かしていきたいと思います。

そして、最後に、将来他の人が自分を知らなくても不満には思わない、という所は、他の人が知らなくても、自分の愛する人、好きな人と自分の気持ちで生きていくことが出来るということだと思います。人に認められたくてやってはいないということ。確かに将来、自分で認めて下さい、と言って認められるよりは、自然に人に認められるようにならなければいけないと思います。「論語を学ぶ」を受講してとても自分のプラスにすることが出来まし、とても勉強になりました。

「恕」

熊谷拓哉

私が選んだ言葉は、「恕」思いやりという意味の言葉です。私は、人間として、人として一番大切な物が思いやりだと思います。思いやりがなければ人間関係、上下関係、友人関係は絶対うまくいかないと思います。思いやりは友人、目上の方だけでなく、一番身近な家族に対して一番使うべきだと思います。毎日お世話になってる父、母だけでなく、兄弟にも使うべきだと私は思います。私は父、母、兄弟だからといって、新聞をとってもらったり、物を取ってもらったりと、いろいろ頼んでしまいます。父、母、兄弟だからといってそんな甘えてはいけないと自分でもよくわかっているのですが、思いやりがたりないのか、毎日のように頼んどりしていました。しかし、こんな事ではだめだと思い、頼むのはやめて、むしろ自分から物などをとってあげたりと進んでやりました。思いやりとは言えないのかもしれないけど、家族に対しての行動を変えるいい機会になったと思います。

私は、小、中、高、そして大学で野球部で野球をしています。昔は、いいプレーをすればいい、ヒットを打てばいい、と軽い気持ち

ちでやっていた所も多々ありました。しかし、野球、野球以外のスポーツこそ、思いやりが大切なのだと気付きました。守備に關しても昔はただ取って投げればそれなりに評価されていました。

しかし、高校、大学は今までと全然違い、捕球して投げるのは当たり前。捕球も送球も大事なのですがそれ以上に相手を取りやすく、なおかつ次のプレーがスムーズに進むよう、相手が取りやすいボールを投げなくてははいけません。これこそが相手に対する思いやりだと気付きました。相手の気持ちもわかったうえでプレーをするのが本当にうまいプレーヤーなので、毎日それに近付けるよう努力しています。相手の気持ちになれば練習や、試合も今まで以上に充実したものになると思うし、勝つために一番必要なことだと最近思うようになりました。野球や、身近な人に対する思いやりを今まで以上に考え、行動すれば、もっと人として大きくなるだろうし、成長すると思います。まだまだ、身近な人や、スポーツに対しての思いやりは自分ではわかっていないと思います。が、人間的にもっともっと大きく成長したいと思っていますので、小さな事から気を配り、今後の生活を一転し、思いやりのある人間に一步でも近付けるよう努力し、毎日頑張っていこうと思います。

「子曰わく、君子は器ならず」
 「子曰わく、先ず行う、
 その言はしかる後に之に従う。」

菊地 美穂

最初の章句の意味は、孔子がおっしゃいました。立派な人は器のように一つのものだけにしか使えない人ではありません。何にでも対応できる人間のことです。次は言うよりもまず先に実行してみなさい。まず自分が思ったことを実行しなさい。です。

この孔子の言葉ですが、これは今まで私が論語の授業の中で、一番心に残っている言葉です。そして、なぜ私がこの文を選んだかというと、まず立派な人は器のように、一つのものにしか使えない人ではない、という意味が、とても共感できたからです。確かに、立派な人は何にでも対応できる人でなければならないと思います。それを器に例えるということはさすがだなあと感じました。そして、その後に■言うよりもまず実行する■と意味が続きますが、これも良い言葉だと思います。計画を立てるよりもまず実行してみた方が、何か発見することができるかもしれない、という可能性を広げてくれていると感じ取れるから、この言葉も

良いと感じました。一つのこと集中することも大事だとは思いますが、私は色んなことを経験して尊敬されるような人になれたら良いなあと思いました。

これは、私の友達の話しなのですが、その友達は計画を立てるよりも実行あるのみだという人でした。そして、何事にも挑戦する人でもあるので、まさにこの章句にぴったりだと思いました。私も、この友達のようになれるように、そしてこの章句のように何事にも挑戦していけるように、頑張りたいです。

最後に、この■論語を学ぶ■という授業についてですが、私にとって人生の成長にとっても役に立つものだという考えを持ちました。なぜなら、孔子の言葉が一つ一つ心に残っていて、こんなにもすばらしい言葉があるんだなあと感じさせられたからです。この授業は前期で終わってしまいましたが、私はこれからも忘れずにこれからの大学生活を送っていききたいと思います。そして、今まで習ってきた論語の章句以外の論語も学んでいきたいです。こうして学んできた論語が私達以外の人々にも伝わるように努力していき、頑張っていきたいです。たった三ヶ月の期間しか論語を学んでいないのですが、何年間も習ってきたように感じました。それほど、私にとって論語は心に響いたものなんだなあと改めて思いました。そして、とても充実していた時間になって良かったで

す。

「四十五にして聞こゆるなくんば、
これまた畏るるに足らざるなり。」

結城 翔

四十歳、五十歳になっても、なにかきちんとした仕事をしたという評価がないということであれば、話にならない。四十・五十になったら一人前の仕事をしていて当然だったというわけです。

私はこの文を読んで、四十歳・五十歳になっても、しっかりとした職がないというのは大変恥ずかしい話だし、もし家族がいるならば、どのようにして家庭を支えているのだろうか。妻や子供から支えてもらっているのならとても情けない話だと思います。

今流行のニートは、十代〜二十代の学校に行ってもいない、職にもついていない若者のことをいい、社会的問題にもなっています。ニートの人達は、職につこうともせず、ただ毎日をグータラに過ごしています。

私の両親は、父・母ともに働いており、父は新聞社の副部長をしており、人の上に立ち、仕事をしています。母は、朝早くから

宅配便の荷物運びをしています。社会的には、十分評価があるほうだと思えます。けれど、両親と同じ世代で職についていない親を想像すると、子供からの気持ちとして、恥ずかしい気持ちもあるし、先が不安な所もあると思いました。

私はこのように、いい歳になっても職がないようなことは嫌なので、今から私がつきたい職に向けて頑張っていきたいと思います。私の将来の夢は、野球で飯を食っていけたら一番幸せな生活をおくっていけると思うし、私は一番野球が好きなので、そのために、高校の時は、甲子園初出場初優勝という目標に向かって高校生活を捧げてきました。けれど甲子園に行くことはできませんでした。それで私は、大学に入り、神宮を目指すことに決め、東日本国際大学に入りました。

将来のために私は、勉強はもちろんのこと、野球では、神宮に出場し、社会人となっても野球をするために、これからの大学生活を全力で過ごし、人間としても成長していきたいと思っています。



「不義にして、富みかつ貴きは、我において浮雲のごとし」

向中野 優也

私は論語の授業を受けた皆さんの良いことを学ぶことができました。その中でも私が学んで一番印象に残り、興味を持ち、今後に生かしたいと思ったのは、この教えです。不正な行為でお金を稼いでも自分は嬉しくない、という教えです。近頃は不正な行為でお金を稼ぐ人は増えていきます。どのようなことをしても、どんな悪いことをしてもお金が手に入ればそれでいいという考えを持つ人達です。ニュースでは最近よくながれます。

変な話、私もお金が手に入るんだとしたらどんな不正な行為をしてまでも手に入れたいという考えを持つ人間の一人でした。不正な行為をしないであまり稼ぐことができないのなら不正な行為をしてまでも稼ぎたいという哀れな考えを持っていました。そのため、私は、孔子の教えを聞いて、何を言ってるんだよ、金を稼ぐことが出来たらそれでいいだろ。と思ってしまいました。しかし、孔子の教えを学び、私も孔子のような考えができる人間になりたいと思うようになりました。

私は小さい頃、自分が手に入れたい物があったらどんな悪いことをしても手に入れたいと思ったことがあります。しかし今は孔子の教えがいいと思うようになったので、このような過ちはおこさないようにします。

私は今まで良くないことをして生きてきたと思います。変な考え、変な欲求ばかり持ち、生きてきました。今ここで孔子の教えを学んでいなければ、今後も今までの生き方で人生を歩んでいくと思います。私はこの学んだ良き考えを今後の人生にいかしていきたいと思っています。そうすることにより、良き人間になれると思っています。

私は今まで学んだ孔子の教えを忘れずに更に学びたいと思いました。

私は論語を学ぶことや、誰かの教えを参考にするというのはとても嫌いでした。学ぶというのは面倒で、参考にするというのは、自分なりの考えて生きていきたいと思っていたので嫌いでした。そんな私も今では、更に良い教えを学びたい、良いと思われる教えは積極的に自分のものになりたいと考えています。

私は前期の授業で孔子の良い教えを学ぶことができました。しかし初めの頃は、昔のこの話だから面倒だと思ったりして、授業を集中して聞くことが出来ていませんでした。今考えるともっ

たいたいと思います。今度からは授業を集中して、大事なことを聞きのがさないようにしたいと思います。また、学んだことをいかしていききたいです。

「子曰わく、吾十有五にして學に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」

遠山 秀人

この文は授業で習った中で、一番心に残った言葉です。私が思うには、孔子というのは、十五歳にして、自分がどのように生きていくかを見つけ出し、色々な事を学び出したのだろう。そして、三十歳にして自分の価値や世の中のために何をすべきかを確にし、四十歳にして、まわりの人々に流されず、あれこれ迷うことがなくなり、五十歳にして、天から受けた自分の運命を知り、六十歳にして、人の言う事、天の声など、自分の耳に聞こえてくるものを疑わなくなり、七十歳にして、自分の考えが確立され、道をは

ずすことが無くなった、ということだろう。こうして、新たに孔子の言葉を考えてみると、孔子という人は、人として見習うべき存在で、いかに素晴らしい人物だったかが伺える。十五歳にして、自分の生きる道や信念とは何かと考えていたのだとすると、自分と比較してみても、自分はそんな事を考えた時は無かった。今は十八歳だが、自分がこれから、どのような道に進むべきかは、まったく決まっていない。ましてや信念と呼べるようなものは、私の中には無いと思う。

しかし、孔子も成功ばかりではなく、むしろ様々な事を考え続けた結果として、偉大な人物と呼ばれるようになったのだろう。だからこそ、私自身も今を大事にしたい。考え悩むという行為は人間にしか出来ないだろうし、そこから何かを導き出すのも人間にしか、なし得ることは出来ないだろう。私は、自分の考えを持ち、自分の行く道や信念というものを、考え抜きたいと思う。そして、孔子の言うように、三十歳になる頃には、立派に成長していたい。

論語を学び、孔子という人物に触れて思った事は、孔子というのは、もっとも人間らしい人物だったのではないだろうか。孔子が残した言葉は、そのほとんどが人として当たり前、道徳を唱えている。それは、誰もが考えていることだ。しかし、そう

いった当り前のマナー、道徳というものをもっていない人達が多いからこそ、孔子という人間が後に偉大だとされ初めたのだろう。孔子の生きていた時代から比べれば、マナーや道徳が無い人は、確実に増えている。私は、こういう事がわかっていながらも、マナーや道徳心のどこかが欠けている。だから私は、論語を学び、人として当り前の事に気付けた事に感謝している。人として当り前の事が出来る人になれるよう努力したと思う。

「子曰わく、君子は器ならず」
 「子曰わく、先ず行う。」
 その言はしかる後に、
 之に従う」

藤井 亮太

これは私が授業をやっている気に入った文で、立派な人とは器ではない。立派な人とは一つのことができるだけではない。色々なことができて役に立つ人、どんなことにも役に立てる人、という意味です。

最初文を見たときはよくわからなかったけれど、意味を知って、

将来このような人間になりたいと思いました。そう簡単にはなりません。今の私は、「自分」に精一杯で、人のために役に立つことができません。私は小、中、高、大学とずっと集団スポーツである野球をやっていますが、野球は、色々なことにも、どんなことにも役に立つことができないといけません。特に高校のときは、監督、先輩達が厳しかったため、常に周りに気を向けて、役に立つことをしなければいけないと考えていました。高校一年から寮に入っていたので、先輩達にいろいろな礼儀を教わり、気が利く人になれといわれていました。気が利くと言うことはどんなことにも役に立つということだと思います。このことを高校の三年間やってきたので、少しは身についていると思います。

もう一つ「その言はしかる後に」という文がありますが、それは、言う前に行動する。言葉はやった後に言うので、まず実行する。ということudur。私が高校三年のとき一、二年の後輩がいて、私達三年生は行動で示めそう、と言ってやってきました。三年が行動すれば必ず、後輩達についてはきてくれました。言う前に行動する。言葉はやった後に言う。まず実行する。まさにその通りだと思います。今は大学一年で逆の立場になりましたが、先輩が言うだけ言うって行動に移していないと、ついていく気になりません。しかし今の先輩達は一年生が行動する前に行動しているので、自

分達もやらなければと言う気持ちになります。そうしていけば自然と良いチームになっていくと思います。最初のことにば戻りますが、これから大人になって立派になるためには、色々なことができて、役に立てなければなりません。高校時代を思いだし、立派な大人になるために頑張っていきたいと思っています。

「子曰く……義を見て為さざるは 勇なきなり」

小野 彩

私が選んだ句はこれである。「子曰く」の句には、続きがあり、「子曰く、其の鬼に非ずしてこれを祭るは、諂いなり」と続いている。これは、自分の家の守護神でもないものを祭るのは、へつらいであり、人の道として当然行うべき事と知りながら、これを実行しないのは、勇気がないものである、という意味だ。

儒学とは、孔子に始まる中国古来の政治・道徳の学であり、諸子百家の一つである。人間としてやるべきこと、やってはならないことを示している。論語では、つねに人間としてあるべき姿を説いている。しかし、現代の日本には、この当然の行いができな

い人間で溢れかえっている。当然の行いを欠いてしまった人間たちが起した事件は、例を挙げるだけでも数え切れないほどだ。

例えば、ごく最近まで毎日のように報道されていた住宅偽装問題や湯沸かし器の改造事件の数々。本来、人の命を自然災害などから守ってくれる筈の建物や役立つ機械が、逆に人の命を脅かすというのはどういうことだろうか。限りある資源を惜しむのはまだ理解できる。いつか底を突くものは、その使い方を工夫していかなくてはならない。しかし、時間を惜しみ、手間を惜しんで費用を浮かせ、人の命を奪う結果に繋がり、挙句に余った費用を自らの懐に入れる。恐ろしいことこの上ない。「上からの圧力で、断れば今後の仕事が無くなる恐れがあった」と、当事者は供述していた。後先をもっと冷静に考えるべきだったと思う。隠し事は、何かしらの形で必ず公になるものだからだ。

間違いと知りつつも、圧力に屈せざるをえない人々。上の人間、会社のトップには、どんな時にも従順であることが求められ、当たり前である筈の正しいことが通せなくなってきた現代の日本。最近では、親が子を、子が親を殺害する事件が、殆ど日常茶飯事化してしまっている。家庭内や学校内、あるいは社会全体などでも、論語で説くような家族愛や忠義といったものが、完全に薄れているのだと思う。そうだとしたら、なるべく早い段階で

『論語』を読んで欲しい。たとえ興味なく読んでいたとしても、読んだことで少なからず頭の片隅に記憶され、論語の句と同じような状況になった際に、咄嗟に思い出すことが出来るかもしれない。そうすることで、孔子が望んだような政治や社会に少しずつでも近づけるだろう。

「子曰わく義を見て為さざるは勇無きなり。」

井 口 翔

この大学は日本で数少ない儒学を建学の精神にしている。授業では孔子の教えを学び、社会のルールと教養を身に付けていくことが大切であると先生が言ったことを覚えている。キリスト教やイスラム教は神がこの大地と人を作ったとされているが、儒学には神は存在せず、大地があり、その中に人がいて、自然と共に生きていくこととされている。私は儒学の方が現実的で、科学技術も何も無い時代に、よく孔子はそう考えることが出来たものだと驚き、そして感心した。

『論語』は孔子の教えを弟子達が書き残したものである。孔子

の教えには、生きていく上で大切な事がたくさんあった。この教えは今を生きる私達にとっても人格を形成していく上で大切なものであると分かった。私は論語を学んで良かったと思う。

孔子の言葉の中で、私にとって大切だと思った言葉がある。「子曰わく義を見て為さざるは勇無きなり。」

はじめに述べた言葉は、正しいことと分かっているが、正しくないことが行われているのに、何もできないのは勇気がないことだ、という意味である。私は今まで生きてきてそういう場面に何回かあった。クラスで一人いじめられている人がいたが、私はその人をかばうと自分もいじめられてしまうのではないかという不安から、見て見ぬふりをしてしまった。また、友達がタバコを吸っていて、辞めるようにと言おうとしたが、友達に嫌われてしまうのが怖く言えなかった。私には勇気がなく、まさに孔子の言葉に当てはまった。

これから大学生活を過ごし、卒業後、社会に出ることになるが、周りには不正がたくさん溢れていると思う。悪に手を染めている人がいたら注意出来る大人になりたいと思う。たとえ批判を浴びようが、正しいことを言っているのはこっちだから、胸を張っていられるような大きな人になりたいと思う。もちろん自分自身悪い行いをしないように、この大学生活で身に付けていきたいと思

う。

「曾子曰く、吾日に吾身を三省す。
人の為に謀りて忠ならざるか、朋友
と交わりて信ならざるか、習わざる
を伝うるか。」

渡 邊 愛 美

意味は「曾子は言った。私は一日に三つの事を反省してみる。真心からその人の為に考えただろうか。仲の良い友達と真心から接しただろうか。本当に自分が習っていない事を人に適当に教えてしまっていないだろうか」です。

この論語の句を読んで、私自身毎日、その日一日にあったことを反省していこうと思いました。この論語の中に出てくる「真心」と言う言葉は、とても奥深いものだと思います。人間は一人では生きていけません。どんなに一人で頑張ろうとしても限界はあります。そんな時、大切になるのは親や親戚、仲の良い友達や周りにいる人達です。人に接する時、真心を持って接すれば、周りからも信用され、いい人間関係が形成できると思います。だからこ

そ「真心」は生きていく上で、とても必要です。私も十八年間生きてきて、相手のことを考えて日々生活してきたかと考えました。

私は高校時代、弓道部に所属していました。弓道は精神を集中させる競技です。また、個人戦と団体戦があります。何の競技でも一緒ですが、団体戦は同じチーム内での信頼関係がすごく重要です。試合に勝つには自分の事も考えなければならないけれど、相手の事を考えなければなりません。私達の学年が弓道部の主体となり活動していた頃は、共に三年間、休みの日も毎日同じ場所で同じ目標に向かって部活をしていました、いつも仲間を信じて、部員皆が一人ひとりの事を考えながら活動していたので、高校時代の部活はすごく私にとっていい経験になり、学ぶ事がすごく多かったです。こう考えると、相手を思いやる気持というのは、今まで生きてきて、備わってきているものなんだなと思いました。

この論語を読んで、感謝する気持ちを持て生活していく事が大事なんだと実感しました。「真心」を持って人に接するということは今まであまり意識したことはありませんでした。ですが、これからは家族や親戚、仲の良い友達に、当たり前にももらっている事を、当たり前と思わずに、一つ一つに感謝の気持ちを持って接していこうと思いました。そう接していくことで相手もいい気持になると思うし、私自身も成長することができると思います。

だからこれからは、一日一日にあったことを反省し、次に活かせるよう頑張っていきたいと思っています。

「子曰わく、吾十有伍にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」

近藤直子

この句は私が半年間論語を学んできて大変印象に残っているものです。

私は、この孔子の生き方が素晴らしいと思い選びました。若くして両親を亡くし、十五にして自分の進むべき道のために努力をし、自分の生まれた時代を変えようとした孔子はとても立派だと思います。この頃の、血で血を洗うような戦国時代に比べると、今、私たちの生きているこの時代はなんて平和なんだろうと思います。しかし、そう思うのは日本が平和だからです。世界に目を

向ければ未だに戦争が続いています。人間が人間らしく生き、一人一人が秩序を守る社会を目指そうとした孔子の教えは、もっと世界中に広げていかなければならないと思います。私も仁、義、恕、忠、礼の言葉を忘れず、秩序を守り、孔子のように自分の思うように行動しても社会のルールに反しない行動をとれるようになりたいと思いました。

地元を離れ、初めての一人暮らしを経験しました。最初はまったく慣れずにとっても苦労しましたが、最近ではだいぶ慣れてきたと思います。今まで親に頼りっぱなしだったことが分かったし、何より、自立できた良いきっかけになり、責任感も強くなったような気がしました。私も後数年もすれば社会人になるのですから、本当に良い経験ができたと思います。

孔子の言葉はどれもためになる言葉ばかりで、これからの人生にすぐ役に立つと思いました。「修身齊家治國平天下」という言葉のように、一人一人が仁、義、恕、忠、礼をわきまえた人になり、一つ一つの国が平和になってほしいと思います。



「不義にして富みかつ貴きは、我に
おいて、浮雲のごとし」

佐々木 明 弘

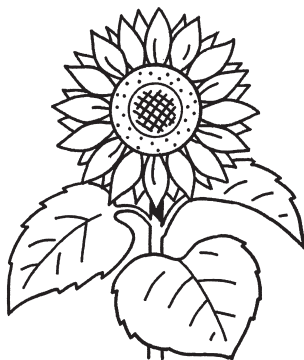
不正でお金持ちになったり、立派になっても、私にとっては
浮雲のようにすぐ消える。

私がこの言葉の意味を知ったとき、とても良い言葉だなと思い
ました。確かに不正、つまり楽をして稼いでもその不正が見つか
ればそのお金はすぐになくなる。

この言葉を聞いて、一人の人物が頭の中にうかんできました。
その人物とはホリエモンこと、堀江貴文社長です。最近はどう見
なくなりましたが、前までは、毎日のように見ていた気がします。
Livedoorはみんなが知っていることでしょう。インター
ネット販売（通販）や株でかなりお金は稼いだと思います。でも
その中にきつと不正で稼いだ金もあった事でしょう。結局、堀江
貴文社長は逮捕されました。証券取引法違反の疑いで。日本全国
に衝撃が走ったと思います。私自身もそのニュースを見たときは
かなり驚きました。その気持ちと同時に少しは残念な気持ちもあ
りました。大阪近鉄バッファローズ買収騒動にかなり興味を持っ

ていました。株の事も少し気になっていたのも事実です。株の事
がまったくわからなかったから株の事を知るいい機会だとおもっ
ていたのに・・・。

日本中の人を巻き込んで、今まで知らなかった事にも関心をも
たせてくれました。すごい人だと思っていました。なのにそうい
う人でも罪は犯してしまうんだなとショックでした。罪はとても
恐ろしいと実感しました。



私の好きな論語の章句

——一言感想文——

「過ちてはすなわち改むるに憚ることなかれ」

佐川 かおり

過ちを犯したと気づいたら率直に改めるということは、今の世の中に必要な言葉だと思った。犯罪など多い現在は、過ちを犯しても平然としている人があまりにも多すぎるからだ。また、過ちを犯したという感覚がない人もいる。この言葉通り、過ちを犯したと気づいたら率直に改めるのが常識であろう。現代人には誰かのためにではなく、自分自身のために、この言葉をきちんと頭の中に入れておいてほしいと思う。

「過ちてはすなわち改むるに憚ることなかれ」

遠藤 舞衣美

間違っていると気づいたらすぐに直す、ということとはとても当たり前のことだけれど、また難しいことでもあると思います。私達の行動の中では、何が正しくて何がいけないのか、わからないことが多くあります。だから、自分自身で間違いに気付くことは簡単ではないと思います。それなら他人から指摘されて……という場面もあるかもしれませんが、現代社会では他人のことを指摘する人はそう多くはないと感じています。

また、もし過ちに気づいたとしても、それをすぐに直せるかというと、直せないというのが本音です。これは私だけではなく、他の人達もそうだと思います。過ちをすれば恥だと感じる人もいるだろうし、まあいいやと思う人もいるでしょう。

だからこそ、この言葉は現代社会にとっては、目指すべき言葉だと思いました。

この言葉を実行できる人が増えれば良いと思います。

「過ちてはすなわち改むるに憚ることなかれ」

池 田 沙 織

過ちを犯したときに、素直に認め、改めることはとても大切なことであると思う。

それ以前に、過ちを犯したことを他人から知らされるのではなく、自分自身で気づくことも大切である。その時には、素直に認めて、これから自分はどうしていけばいいのか、考えられるようになれば良いと思う。私は自分の過ちに気づくことはできていると思うが、なかなか、そこから改めていくことができない事があるので、その時の状況を把握し、他人の気持ちを考え、自分自身についても問いつめ、その過ちを二度と繰り返さないよう心がける必要があると、思う。

「過ちてはすなわち改むるに憚ることなかれ」

三 浦 瞳

過ちを犯したと気づいたら率直に改めるということは、とても基本的な事であると同時に大切なことだと思っています。過ちは誰にでもあるけれど、その過ちに気づかず、そのままでしたら、次へは進めないと思うし、人間関係にしても何にしても、率直に改めることで、その後良い方向へ修正できるのではないかと思います。小さい頃からこういう気持ちを持っていると良いのかなと思います。

これからは、もっとこのことを意識して生活していきたいと思っています。



「過ちてはすなわち改むるに憚ることなかれ」

安 齋 拓 実

過ち犯したと気づいたら率直に改める。という意味であるが、今の時代、すなおに直そうとせず、相手が悪いと一方的に決めつける人がいる。

これは本当にざんねんだ。そのような人は、まず自分が過ち（間違い）をしたと気付いていないので尚さらだ。

人という生き物は完璧ではない。だからこそ間違うのだ。と聞いたことがある。そしてこの言葉。気付き、改める。これは私たちがより良い人になるために、なくてはいけないことではないだろうか。日々間違いを犯しても、日々それに気付き、改めようと、まずは努力しようとするだけでも、心構えがちがってくるのではないだろうか。

そして、私たちは人間として、また一歩、成長するのだと思う。

「曾子曰く、われ日にわが身を三省す…」

菅 原 あやか

これが私の好きな言葉である。この言葉は一日一日を意味あるものにし、次の日につながるものだと考えるからだ。

良い日、悪い日と様々な日がある中でも、その日に自分自身の反省をすることで、良い反省ならもっと良い方向へ、そして、悪い反省だったら良い方向へと導く、向上心に満ちた言葉であると思う。向上心は人の心を満たすものであると考えられるし、いろいろな発展につながるものである。

この言葉にはそういった前向きなものが感じられるので、とても好きな言葉である。

「切磋琢磨」

田 浦 由 希

この言葉は、中学二年生の時のクラスだよりの題名でした。当

時は、どういう意味なのかわかりませんでした。今回、論語の勉強をして、切磋琢磨とは、「お互いがお互いの発展のために人間関係を作る」という事だという事がわかりました。

世の中に人間はたくさん生きていますが、その中で、自分の一生の中で出会える人の数は、決まっていると思います。自分が出会った人は、みんながみんな良い人ばかりとは限らないと思いますが、もしその時出会った人が、自分にはないものを持っていたならば、その人から学ぶべきだと思うし、もし、出会った人が、その時、何かを求めているなら、自分にできる限りの事は、してあげるべきだと思います。人は切磋琢磨して、人として成長できるのだと思います。

自分も、この言葉を心掛けて生きていきたいと思っています。

「切磋琢磨」

目黒千晴

まさか、この言葉が『論語』からきているとは思いませんでした。「お互いがお互いを磨き、高め合う」とは、とても素晴らしいことだと思います。

私も、大学生活で、この言葉を意識し、お互いを高め合えるような友人を多く作り、充実した二年間をおくりたいと思いました。そして卒業する時には、大学生活が一生の大切な時間だったと思えるように、一日一日を真剣に生きようと思いました。

「子曰く、吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」

渡邊 充子

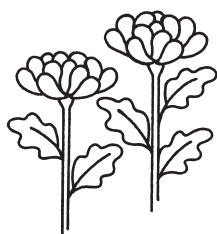
この言葉を聞いて最初は意味がわからなかったのですが、意味を知り、孔子はすごいと思うと同時に、ある意味、なんとなく共感できた気がします。今自分は十八才で、もう大人だと思っているけれど、実はまだまだ何も知らない子どもで、世の中を理解するには六十才、七十才、八十才にならないと、本当の意味での大人にはなれないのかなと思いました。

「故きを温ねて新しきを知る、もつて師となるべし」

金 沢 奈穂子

最近新しいものが溢れていて古いものが記憶の中、世間から消えていつている。しかし、古いものは、新しいものよりいいものが多い。古いのを大事にしていけば、その中で新しいものを知っていていけて、無駄がなくなると思う。

それに、新しいものは人にとって楽ばかりしてしまうものが多い。だから、人は楽を求めて古いものの良さを忘れてしまう。古い知識、物があるから、新しいことを発見できるので、古いのを大切に記憶にとどめておくことは本当に大切だと思った。



「子曰く、学びて時にこれを習う、また説ばしからずや。朋あり遠方より来たる、また樂しからずや。人知れずして慍みず、また君子ならずや」

古 川 歩

孔子が、遠方からはるばる訪ねてきた友人に対して、「おおくしぶりだな」「よく来たな」とねぎらいの言葉をかけ、手厚くもてなした、という文を読んで、孔子は、友人をととても大切にしたと言ふ事がわかりました。私も最近地元の友人に手紙を出したりしていますが、メールなどが発達してる中で、手書きで書いてくれる手まなどを考えると、良い友人をもったのと、感じています。なかなか直接会う事はできないけれど、孔子が友人を大切にしているように、私も文字で気持ちを伝えたりして、良い友人関係をきづき続けられたら良いなと思います。

論語素読教室

一般受講生

人間形成はまず家庭から

小松 政 男

■父親は家庭の責任者■

物に恵まれ、生活は豊になったが、青少年の犯罪やいじめ、不登校の問題などと、子育てのむずかしい時代になってきた。だからといって学校が悪い。社会が悪い、政治がなっていない…などと、どんなにさわぎたてても、子供は決して幸せにはならない。

それより、家庭教育こそ人間形成の基礎であり、家庭こそ子育ての道場であり、■親こそ子供の最高の教師である■と云う自覚に立って「自分の子は親が責任をもって育てる」という強い信念

を持つてほしいものである。

それだけに父親の家庭責任は重かつ大である。父の日が来ると、いろいろ見聞するが、理由も聞かずにすぐ怒る、暴力で押さえつける父親の評判はよくない。やさしさの中にも明るさ、元気のよさ、たくましく生きる■男の強さ■が今求められている。

・父・親・とは・何・か・

(一) 家族の生命と生活を守る責任者

家のことは妻を信頼して一任し、仕事は天職・使命に全力を尽くし、一家の生命と生活を守るたのもしい大黒柱。■オレが養っている■■オレが食わせている■などと、いばるのは下、男が働いて妻子を養うのは当たり前で、自慢したり、恩きせがましいことは一切いわないこと。それが男の貫禄というもの的心得よう。

(二) 子供のしつけ・教育の推進者

進学、就職、結婚など人生の重大事のほか社会生活や集団生活の中でまもらなければいけないルール。善悪のけじめ、良否の判断と適切な対応の仕方などを教え、自信と希望をもたせる頼りがいのある指導者。

(三) 一家の和樂の中心者

やたらと妻子を叱ったり、こごとは言わない。仕事上の泣き

ごとなどを言わない。いつも明るく、大らかで■うちの父さん
がいるから何の心配もなく幸せだ■と言われるように。

(四) 家族の統率者

家庭の秩序やルールを尊重し、妻を喜ばせる夫。家族の信頼
のあつきリーダー。自分の家族の統率ができない人間に、社員
や、部下の統率ができるはずがないではないか。

(五) 人生の先達者

よき先輩として生き方を示し、感謝・感謝の生活に徹して、妻
子の尊敬を得られる人格者でありたい。父親としての価値観と
社会的見識をもち、つねに子供の行動や考え方を正確につかみ、
成長に応じて必要な意見を述べ合い、やるべきことはきちんと
やらせること。

このように本気で家族や子供の幸せを考え、その生き方をリー
ドするのが、父親の使命であり、男親の責任である。

儒教と教育

三本松

武

私は毎月三日間バスを乗り継ぎ、校舎の高台にある孔子廟に参

上して、論語素読会の唱和に参加しておりますが、自分自身の健
康と修養に大きな支えになっております。

更に毎年六月に開催される孔子祭には、理事長の田久孝翁先生
の祝辞に深く肝銘すると共に、論語の真意の一端でも、私の脳裏
に刻んでおきたいものと、日常研修に励みたい。

さて戦前戦後の日本の国柄について、考察してみたいと思う。
戦前日本に來朝された外国人、特に欧州人は、日本という国は生
活は貧困だが、勤勉で礼儀を重んずる犯罪の少ない国と称賛して
きた。ところが今日の日本はどうだろうか、日本という国はどこ
かに行ってしまったのだろうか。

ここ十年前頃より、上層階級の破廉恥行為、青少年犯罪の凶悪
化の激増、親族間の確執等不安と恐怖の中で、いつ我が身に罹る
か分らない不穏な社会になってしまった。

戦後米国の合理主義による論理国家の政策により、我が国固有
の文化、伝統、慣習は、大きな打撃を被り、日本人の名誉や誇は
悉く覆されてしまった。

戦前の日本の道德教育は、江戸時代の武士道精神による藩学教
育が、子弟教育の最大の主眼であり、忠義と敬神崇祖の二大目標
が、江戸時代の秩序と安定を維持してきた。

その後明治時代より戦前迄は、道德教育として小学校より修身

という教科を設け、主として校長・教頭の直接授業として、他の科目より重視されてきた。

然るに戦後、小学校における道徳教育は教科としての授業はなかった。今年はどうなるかと期待していたが、今回も教科授業としては、復元することはなかった。

戦後歪められた教育制度の復興のため、まずは小学校低学年より道徳科目の授業として、情操・慈愛・人命尊重等を徹底的に教導すべきである。教育の原典は道徳であり、道徳の原は儒教である。

巷に横行する少年の犯罪は、戦後の家族制度の崩壊にあり、祖父母・親子の関係は親近感が薄れ、特に親族間の競いは戦後の民法にあり、親族間の融和の為に民法の大改正が必要である。

民法ばかりではなく、戦後の法規は総て戦勝国の監視統治下で作られたもので、日本人自身の創意によるものではないので、凡ての法律を再検討すべきであり、特に教育制度については、将来の日本の運命が懸っているので、慎重に審議すべきである。

論語素読教室

毎月 第二、第三、第四土曜日

午後一時～二時半

於・大成殿（大学内）

受講料無料

いつからでもご参加下さい。

（かな論語進呈）

電話（代）三五〇〇〇一（伊藤）

修 報 第十二号

平成十九年六月

学校法人 昌 平 覺
東日本国際大学
儒学文化研究所

住所 いわき市平鎌田字寿金沢三七
電話・FAX (〇二四六) 二二一六六二